かけはし

会報 74 号 発行:特定非営利活動法人全国LD親の会 発行人:内藤 孝子

事務局:〒 151-0053 東京都渋谷区代々木 2-26-5 バロール代々木 415
TEL/FAX:03-6276-8985 E-MAIL:jimukyoku@jpald.net URL:http://www.jpald.net/

特定非営利活動法人 JPA LD 全国LD親の会

「アジア太平洋障害者の十年（2003～2012 年）」最終年記念
障害者関係功労者　内閣総理大臣表彰

特定非営利活動法人全国LD親の会は、この度、「アジア太平洋障害者の十年(2003～2012 年)」最終年記念の障害者関係功労者として、内閣総理大臣から表彰されました。この表彰は、「アジア太平洋障害者の十年（2003-2012 年）」最終年を記念し、自立して社会活動に参加し、広く他に範を示している障害者又は障害者の福祉の向上に関し顕著な功績のあった個人若しくは団体を顕彰することを目的とされています。被表彰者「自立して社会活動に参加し、広く他に範を示している障害者又は障害者の福祉の向上に顕著な功績を挙げ、国民の模範と認められる個人若しくは団体であって、内閣総理大臣が顕彰することを適当と認める者」とされ、関係省庁から推薦された個人、団体から内閣総理大臣により決定されます。弊会は、文部科学省から推薦いただきました。「各種啓発活動、調査・研究活動などに積極的に取り組む。またLD学会に設立の早期から参加し、学術的な団体との連携にも力を入れてきた。LD等の発達障害について、その教育・福祉などに携わる人たちの理解推進に大きな役割を果たした」と弊会設立以来 22 年間の活動を認めていただき、身にあまる評価をいただきました。2007 年に受賞しました博報賞、文部科学大臣奨励賞に続き名誉ある表彰に、会員一同たいへん嬉しく思っております。これも、日本LD学会、日本発達障害ネットワーク等の関係団体、および関係省庁のご指導、ご支援の賜と深く感謝しております。

2012 年 12 月 3 日、皇太子殿下ご臨席のもと、授与式が行われ、野田内閣総理大臣より、表彰状と記念品（盾）を賜りました。20 数年前、各地で、思いきって行動をおこし、活動を続けてきた全国の諸先輩や会員のみなさんが作りあげてきた親の会であることを誇りに、これからも弊会はLD等の発達障害のある人の人権が守られ、生き生きと暮らすことのできる社会の実現、人間の多様性が尊重される社会の実現を求めて、更なる飛躍をしていきたいと思っております。

今後ともご指導、ご鞭撻よろしくお願いします。

特定非営利活動法人全国LD親の会
理事長　内藤 孝子

アジア太平洋障害者の十年(2003 年～2012 年)　（障害保健福祉総合情報システムより）

アジア太平洋障害者の十年は、国連・障害者の 10 年の成果をさらに発展させ、障害者の完全参加と平等を実現する取り組みを地域共同で展開するためのキャンペーンです。最初は 1993 年から 2002 年までででしたが、2002 年 5 月の国連 ESCAP 総会で 2012 年までの延長が決まりました。1993 年から 2002 年までを第一次、2003 年から 2012 年までを第二次と分けて呼ばれています。

特別支援教育支援員養成事業

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

広く日本各地で、特別支援教育を支える人材の育成・活用を図るために、3 年間の文部科学省委託事業の研究成果を踏まえ、今年度より日本財団からの助成を受け、特別支援教育支援員養成講座の本格実施、テキストの作成に取り掛かっています。

養成講座（支援員コース・学習支援員コース）の実施状況を報告します。

◆会場:ドーンセンター（大阪市）

◆コース:

・支援員コース

5 日間 ・20 科目 27.5 時間 ・受講者:42 名

・学習支援員コース

7 日間 ・28 科目 30.5 時間 ・受講者:10 名

◆講師:特別支援教育士SVを中心とした有資格者

◆受講者:

一般:32 名 （教員、支援員、学童支援員、塾講師など）

親の会会員:20 名 （京都たんぽぽ、翼、おたふく会、たつの子、ほっぷ、はあとりんく）

◆プログラム

第1日 8月25日（土） 9:50～17:00

	科目
	オリエンテーション
1	特別支援教育支援員としての業務 大谷和夫（池田市立石橋小学校 校長）
2	特別支援教育支援員としての倫理・心構え 大谷和夫（池田市立石橋小学校 校長）
3	特別支援教育概論 竹田契一（大阪教育大学 名誉教授）
4	主な障害の特性の理解(1) 森田安徳（神戸親和女子大学 准教授）
5	主な障害の特性の理解(2) 森田安徳（神戸親和女子大学 准教授）

第2日 8月26日（日） 9:30～16:40

6	学級・学校での支援の仕方 小田浩伸(大阪大谷大学教育福祉学部 准教授)
7	担任との連携の仕方 小田浩伸(大阪大谷大学教育福祉学部 准教授)
8	子どもへの対応の基本（1） 苫廣みさき（堺市立五箇荘東小学校 教諭）
9	子どもへの対応の基本（2） 苫廣みさき（堺市立五箇荘東小学校 教諭）

第3日 9月29日（土） 9:30～16:50

10	子どもの特性と対応方法(A)-① 松久真実（プール学院大学短期大学部 講師）
11	子どもの特性と対応方法(A)-② 松久真実（プール学院大学短期大学部 講師）
12	特別支援教育コーディネーターからのレクチャー 今村佐智子（堺市立美木多小学校 教諭）
13	現役支援員からのレクチャー・ワーク 特別支援教育支援員 3名

第4日 9月30日（日） 9:30～12:40（台風のため午後休講）

14	子どもの特性と対応方法(A)-③ 伊丹昌一（梅花女子大学 教授）
15 16	子どもの特性と対応方法(A)-④・ロールプレイング 伊丹昌一（梅花女子大学 教授）

第5日 10月20日（土） 9:30～16:30

17	子どもの特性と対応方法(A)-⑤ 山田定宏（京都府立向日が丘支援学校 副校長）
18	保護者への対応 内藤孝子（NPO法人全国LD親の会 理事長）
19	ペアレントトレーニングの視点① 河内美恵（まめの木クリニック 心理士）
20	ペアレントトレーニングの視点② 河内美恵（まめの木クリニック 心理士）
	修了式（支援員コース） 修了者35名

第6日 10月21日（日） 9:30～16:50

21	学習面の困難とサポート方法 4 山田充（堺市立日置荘小学校 教諭）
22	教材・教具の利用方法のワーク 山田充（堺市立日置荘小学校 教諭）
23	学習面の困難とサポート方法 1 村井敏宏（奈良県平群町立平群東小学校 教諭）
24 25	学習面の困難とサポート方法 2 ・演習 村井敏宏（奈良県平群町立平群東小学校 教諭）

第7日 11月10日（土） 9:30～16:50

26	学習面の困難とサポート方法 3 栗本奈緒子（大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士）
27	子どもたちに接する時のポイント 西岡有香（大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士）
28	ロールプレイング・グループ討議 西岡有香（大阪医科大学LDセンター 言語聴覚士） 根来 あゆみ（神戸市学びの教室 専門相談員）
	修了式（学習支援員コース） 修了者8名

受講生の満足度は、「とても満足している」87%・「やや満足している」13%でした。講師の先生方、講座の運営に協力いただきました「おたふく会」「たつの子」に感謝申し上げます。 （内藤）

発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化

日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

サポートツール・データベース事業では、2009 年度以降の「発達障害児のための教材・教具データベースの構築と普及事業」の成果をもとに、今年度から「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」をテーマに取り組んでいます。本事業の要点は、下記 2 点です。

①データベース事業では、「教材・教具は使い方こそが大切である」といった観点から、教材・教具の有効的な使い方を示した実証を示してきました。実証の多くは通級など個別や少人数での取り組みですが、課題を進める上での説明や子どもへの指示の出し方といった部分こそが、実は重要であり、通常の学級での特別支援教育を進めていく上で大切な視点といえます。通級などでの教材教具の効果的な使い方が通常の学級でも展開できるよう、ユニバーサルデザインの視点を加えたデータベースを再構築していきます。

②教育分野でのICT活用と子どもの状態に応じた支援機器の充実を図っていくことで、通常の学級での取り組みも特別なプログラムではなく、「全員がわかる、参加できる授業作り」へとつながっていきます。通常の学級での障害のある子も無い子も学びやすい機器の実証を加え、支援機器のユニバーサル化について考察していきます。

サポートツール・データベース事業で取り組んできた「LDなどの発達障害のあるひとり一人の子どもの特性に応じた教材・教具の使い方」についての基本的な考え方は、単なる「個」についての対応だけにとどまるものではなく、インクルーシブ教育システムの構築における「合理的配慮」と「基礎的環境整備」を考えていく上でも重要な視点といえます。「基礎的環境整備」を進めるに当たっては、ユニバーサルデザインの考え方も考慮しつつ進めていくことが重要という提言もなされていることから、教材・教具について、ひとり一人の子どもへの個別アプローチに加えて、どのようなユニバーサルデザイン化が可能か、その方向性と具体的な取り組み方についてのデータベースを整備していく予定です。

1.サポートツール・データベースの充実とホームページのリニューアル

現在のデータベースに上記観点を踏まえたツールの実証を進め、掲載していきます。また、ホームページの検索機能を強化するとともに、動画などもアップしていく予定です。データベースのホームページ開設時は、「事業説明」「サポートツール・データーベース」の2つのコンテンツをメインに構成していましたが、現在は研修会の各種情報、日本財団事業としての説明等、各種情報が加わり、サイト構成として必要な情報が探しにくいホームページとなっています。これを今後追加されるコンテンツの内容も含めて、「サポートツール・データベース」「研修会」「動画」「ユニバーサルデザイン」といった 4 つのコンテンツをメインにした、より情報を探しやすいシンプルなサイトに再構成します。

2.サポートツール全国キャラバン 2012 教材教具研修会「発達障害がある子ども一人ひとりのニーズに応じた指導・支援の具体的方法」

①サポートツール全国キャラバン 2012 in 東京

2013 年 2 月 10 日（日）13:30～16:30

会場：江東区教育センター　大研修室

講演 1

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～

講師：山田充氏

（特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員）

講演 2

「作業の工夫で子どもたちを元気に！」～発達障害のある子どもたちに応じた教材教具の工夫～

講師：丹葉寛之氏

（藍野大学医療保健学部作業療法学科講師・大阪府作業療法士会発達部門代表）

ワークショップ

②サポートツール全国キャラバン 2012 in 長崎

2013 年 2 月 11 日（月・祝）10:00～16:30

会場：長崎県立こども医療福祉センター

共催：長崎発達支援親の会「のこのこ」

講演 1

「発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用」～使い方で変わる教材の有効性～

講師：山田充氏

講演 2

「発達障害のある子どもの感覚運動機能に応じた教材教具の工夫」

講師：嶋谷和之氏

（日本感覚統合学会テストメカニクスインストラクター・大阪市更生療育センター作業療法士・大阪府作業療法士会発達部門副代表）

ワークショップ

＊各研修会の詳細は、NPO 法人全国 LD 親の会の HP に掲載しています。　（井上）

一般社団法人日本LD学会
第 21 回大会報告

2012 年 10 月 6 日（土）～8 日（月・祝）
会場：仙台国際センター
テーマ ：「教育の復興と創造
～クラスルームからコミュニティへ～ 」

「仙台に来てけさいん！そして手と手をつなぐべっちゃ！」という渡辺徹大会長のご挨拶のもと、一般社団法人日本LD学会第21回大会は、国立大学法人宮城教育大学を開催校として東日本大震災の被災地の一つである仙台の地で開催されました。

会場は仙台駅から比較的近い「仙台国際センター」で、その昔、青葉城のあった青葉山の入口に位置しているそうです。

仙台国際センター

大会の趣旨は、2011年 3月11日に起こった東日本大震災と福島の原発事故による①被災地の復興における教育状況を点検すること、また震災直後の混乱状況から、1年半経過した子どもを取り巻く教育環境はどのような変化があったのかを確認し、②そのニーズ変化に対応した必要とされる中・長期の教育支援のあり方を探ること、さらに広げて、③被災の有無にかかわらず、様々な困難状況におかれている配慮の必要な子どもたちへの支援のあり方を検討することにあり、これらの取り組みから最終的に④一人ひとりの子どもたちに対する教育の本質を捉え直し、新しい教育の創造を提案していく、でした。

主な内容ですが、●特別講演Ⅰ：浅野史郎（慶応義塾大学教授・前宮城県知事）「共に生きる」●特別講演Ⅱ：Syeryl Burgstahler Ph.D、「LDのある人たちの支援の在り方とその実践」●大会会長講演：渡辺徹（宮城教育大学教授）「宮城県・仙台市の特別支援教育～むかし・いま・これから～」●理事長講演：上野一彦（大学入試センター）「日本LD学会20年の飛躍とこれからの課題」●受賞者講演：岡本邦広（国立特別支援教育総合研究所）「数学に苦手意識のある生徒への支援」●寸劇：竹田契一（大阪医科大学LDセンター）「発達障害がある児童・生徒はどこでつまずくのか、どう関るのか」があり、その他、大会企画シンポジウム（7）・学会企画シンポジウム（2）・教育講演（10）・親の会企画シンポジウム（1）・自主シンポジウム（50）・ポスター発表（188）など、盛り沢山でした。特別講演に登壇された、Syeryl Burgstahler氏は、米国ワシントン大学教育学部連携教授で、DO－ITを中心に高等教育における障害学生のテクノロジー活用と教育のユニバーサルデザインを専門としておられ、今回はセルフ・アドボカシーや学業スキルを高める援助とユニバーサルデザインの原則を適用した環境作りの取り組みについて話されました。今大会は、ユニバーサルデザインや合理的配慮のテーマが多かったと感じました。参加者は3日間で約1800人ということでした。復興しつつある仙台にて、多様な場所で活躍する沢山の手が繋がれた有意義な大会でした。山形県「ピーターパン」様、お世話になりました。

宮城県観光PRキャラクター「むすび丸」です。

豊かな食と文化に恵まれた宮城を「おにぎり」で表現し、「伊達」を象徴する伊達政宗公の兜の飾りをつけています。LD学会大会の各会場のスクリーン上でも、姿を見せていました。　（丹藤）

来年度の日本 LD 学会大会は横浜です。
第 22 回日本 LD 学会
＊日程：2013 年 10 月 12 日（土）～14 日（月・祝）
＊会場：パシフィコ横浜

親の会企画シンポジウム　日本財団 The Nippon Foundation 助成事業

日　時：10月 7日（日） 10:00～12:00
テーマ：すべての子どもの学びを保障するために
～教育のユニバーサルデザイン化を考える～
企 画 者： NPO法人全国LD親の会
司 会 者： 内藤 孝子（NPO法人全国LD親の会）
話題提供者： 井上 育世（NPO 法人全国LD親の会）
佐藤 由弘(伊達市立大石小学校)
山田 充(堺市立日置小学校)
指定討論者： 品川 裕香（教育ジャーナリスト）
参加者数： 85 名

今回の親の会企画シンポジウムは、全国 LD 親の会が取り組んでいる「LD 等の発達障害に関する研究事業」のひとつの「発達障害児のためのサポートツールの個別の使い方とユニバーサルデザイン化」事業の一環として企画しました。

現在、文部科学省において、インクルーシブ教育システム構築に向けての特別

支援教育の方向性がまとめられつつあります。インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある児童生徒に対して、その時点で教育的ニーズに最も的確にこたえる指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要です。

そして、子ども一人一人の学習権を保障する観点から、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要であることから、昨年度までサポートツール・データベース事業で取り組んできた「サポートツールの個別対応の使い方をいかにユニバーサルデザイン化し、インクルーシブ教育に縫合していくか」が今後の大きな課題と考え、「通常学級での授業をユニバーサルデザイン化するために必要な視点」について話題提供していただき、討議を行いました。

まず、井上からは、全国 LD 親の会が 2006 年度から取り組んできた「サポートツール・データベース事業」の経過説明と、その成果を踏まえた今後の方向性と課題について話させていただきました。

つぎに、福島県伊達市立大石小学校の佐藤由弘先生からは、福島県では「教師が、障がいを含め、児童の特性を的確に捉え、その多様性を認めたうえで、ユニバーサルデザインの授業や学級経営を行い、障がいのある子どもたちと障がいのない子どもたちが、お互いの良さを理解し、多様性を認め合いながら、共に支え合う人間関係づくりをしていくことが重要」といった認識のもとで特別支援教育―「共に学ぶ」教育を推進してこられたことをお話しされ、視覚に障がいのある児童が通常学級で学んでいる具体例をもとに、児童の認知スタイルを明らかにした上で考慮された教材の提示や働きかけが、クラス全体で共有されることによって、当該児童以外のさまざまな認知特性を持っている他の児童にとっても分かりやすい授業になっていることなどを提示していただきました。また、3.11 東日本大震災の教訓を生かした「復興教育」への取り組みや子ども達の姿には、今まで案外気軽に使われてきた「生きる力」という言葉の重みをずっしりと感じました。

堺市教育委員会特別支援教育専門家チームの山田充先生からは、堺市での「特別支援教育推進リーダー育成研修事業」について話していただきました。授業のユニバーサルデザイン化における視覚化・構造化・協働化の具体例として、実際の通常学級での研究授業の映像を拝見して、「すべての子どもが参加できる」授業を作っていく際に必要な視点を持つことの重要性と難しさを感じました。また、堺市で特別支援教育を推進していく次世代育成研修の取り組みがなされていることに希望を持ちました。

教育ジャーナリストの品川裕香さんから各話題提供者へのご質問をいただき、「システム論的パラダイムに基づく教育」についてのお話に、それを具体化させる要素と授業をユニバーサル化させる要素とは共通するものがあるように感じました。

今年度の LD 学会大会では、インクルーシブ教育システム構築への方向性を踏まえ、「通常学級での取り組み」や「ユニバーサルデザイン」についてのシンポジウムが数多く開催されていました。

インクルーシブ教育システムの構築とは、「すべての子どもの学びを保障する」仕組みを作ることであり、「ユニバーサルデザイン化」には個別のニーズの把握が不可欠です。このようなニーズを示していくためにも、当事者団体としての視点で研究事業を続けていく重要性を再認識することができました。 （井上）

親の会紹介ポスター展示

LD 学会では恒例の親の会紹介ポスター展示を行いました。出展した会は、クローバー、アインシュタイン、ピーターパン、麦、コスモ、にじの会、いなほの会、けやき、にんじん村、よつ葉の会、かたつむり、れんげ、おたふく会、翼、トムソーヤ、たつの子、はあとりんく、明日葉、たけのこ、の 19 会と全国 LD 親の会で、計 20 枚のポスターを展示しました。今回は、個別の部屋ではなく、通路も兼ねたロビーに展示したので、他のポスターセッション等を見に来る人も通りすがりに見ていく人が多かったようです。

親の会懇親会

LD 学会の中日の 10 月 7 日に仙台駅前で親の会の懇親会を行いました。親の会会員 19 名の他に、教育ジャーナリストの品川裕香さんと、教材教具でお世話になっている山田充先生も参加してくださり、とてもにぎやかな懇親会になりました。幹事役の山形「ピーターパン」さん、どうもありがとうございました。 （東條）

一般社団法人日本ＬＤ学会設立 20 周年記念式典

11 月 23 日（金・祝）、一般社団法人日本LD学会設立 20 周年記念式典が、東京都港区高輪の TKP ガーデンシティ品川で行われ、全国LD親の会を代表して、記念式典に参加させていただきました。第一部は、理事長の上野一彦先生のご挨拶のあと、作家の市川拓司先生の記念講演「発達障害と私」があり、引き続き第二部の記念式典・祝賀パーティが行われました。日本LD学会は、1992 年 11 月学術団体として、教員と保護者と専門家によって設立され、以来、我が国のLD研究と実践を引っ張ってこられました。現在、会員数 7000 名超えたそうです。上野先生がご挨拶の中で、「我が国におけるLD研究と実践作りの段階はほぼ終わり、飛躍の時を迎えようとしている。これからは『理解と啓発の時代から、効果的な支援の時代へ』の移行である」と述べられました。

祝賀パーティで祝辞の機会をいただきましたので、親の会として、日本LD学会の先進的活動に感謝するとともに、20 年に及ぶ諸先生方の導きや教えに御礼を申しあげました。これからも、先生方にご教示を得ながら、親の会も前進し続ける団体でありたいと強く思いました。　（内藤）

一般社団法人　日本発達障害ネットワーク　（JDDネット）より

◆第 8 回年次大会報告

日　時: 2012 年　12 月　2 日（日）
会　場:福島大学
テーマ:「かわるもの、かわらないもの
～これからの発達障害支援～」

内山登紀夫先生（JDDNET 理事・福島大学大学院教授・よこはま発達クリニック院長）を大会長とする第 8 回 JDD ネット年次大会が福島大学で開催されました。

【趣旨】

昨年の東日本大震災と津波、原発事故によって福島を始め被災地の状況は大きく変質しました。もちろん発達障がいのある子どもや成人の状況は、より厳しいものに変わってしまいました。震災・津波・放射能・風評被害という四重苦の中での支援はどうあるべきなのか。発達障がいのある人や家族の支援の基本は、どの時代でもどの地域でも同じはずです。しかしながら、東北地方はもともと社会資源が少ない中で、四重苦によってさらに発達障がいへのサービスが低下してしまいました。本大会では「かわるもの、かわらないもの～これからの発達障害支援～」をテーマに、どのような状況であっても変わらないはずの発達障がい支援の本質について議論しつつ、被災地で開催するという特別な環境下で、被災により変わったこと・変わらなければならない支援とは何かについても論議を深めていきたいと思います。

【概要】

大会長基調講演の他、6 企画と 2 つのランチョンセミナーが開催されました。企画の一つ、「発達障害に対する就労支援の現状と課題」のテーマのシンポジウムに内藤理事長と山岡顧問（JDDネット副代表）が登壇し 100 名の参加者がありました。また、出展ブースに全国 LD 親の会も参加し、事業の紹介や冊子販売をしました。年次大会参加者は、422 名でした。

また、大会前日 12/1(土)には体験博覧会（参加者 232 名）があり、2 日間実行委員として参加しました。

強い冬型の気圧配置の影響で雪が舞う寒い 2 日間でしたが、内容の熱い大会でした。　（丹藤）

◆「心が楽になる考え方のコツを知る ストレスマネージメント講座」のお知らせ

【東京会場】
2013 年 1 月 19 日（市川　宏伸　JDDNET 理事長）
2013 年 2 月　2 日（橋口　亜希子　JDDNET 理事）
場　所:青山こどもの城　研修室

【大阪会場】
2013 年 2 月 10 日（竹田　契一　JDDNET 理事）
2013 年 2 月 24 日（高山　恵子　えじそんくらぶ代表）
場　所:ドーンセンター　会議室

詳細は、下記、JDDネットホームページをご覧ください。
http://jddnet.jp/index.files/archives2012/news20121114.html

全国特別支援教育推進連盟より

今年度より加盟致しました全国特別支援教育推進連盟の紹介と理事会、協議会報告をさせて頂きます。

沿革:昭和 39 年 6 月に第 1 回全国特殊教育振興会を東京久保講堂にて 1300 余名の参加者を得て開催。同年 11 月に東京都立光明養護学校にて準備会開催後、12 月に全国特殊教育推進連盟の結成大会を開催しました。以後毎年、振興大会または協議会を開催し課題を協議しています。昭和 58 年に結成 20 周年記念大会、平成 5 年に結成 30 周年記念式典、平成 10 年に特殊教育 120 年を迎えた記念大会を開催。平成 15 年には「全国特別支援教育推進連盟」と改称し、現在 16 団体が加盟しています。

常任理事は、全国特別支援学校長会から 2 名・全国特別支援学級設置学校長協会から2名・PTA関係から2名・親の会関係2名・協会関係1名で構成されており、現理事長は 9 代目である大南英明氏です。

目的:特別支援教育全般の振興をはかる

事業:

Ⅰ. 通常事業

① 全国特別支援教育振興大会及び振興協議会の開催
② 特別支援教育関係図書の刊行
③ 全国特別支援教育の向上、発展に関する予算への要望（文部科学省・厚生労働省・総務省）
④ 全国特別支援教育振興に関する各種団体との連携・協力

Ⅱ. 委嘱事業・就学啓発事業（文部科学省）

① 就学啓発冊子の作成・配布（昭和 56 年度より実施）
② 就学啓発推進会議の企画・推進（昭和 57 年度より）
③ 特別支援教育理解推進 DVD の作成等（予定）

●第 3 回 理事会（平成 24 年 10 月 5 日）

来賓として文部科学省初等中等教育局特別支援教育課課長と厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課課長補佐が出席され、ご挨拶と予算概要の説明がありました。

●第 35 回 全国特別支援教育振興協議会

テーマ:「特別支援教育の更なる充実を目指して」

日 時:平成 24 年 12 月 7 日（金）

この協議会は、全国特別支援教育推進連盟・文部科学省・独立行政法人国立特別支援教育総合研究所の三者の共催により実施しています。教育、医療・保健、福祉・労働関係機関と家庭・地域との連携の具体化について、6団体から提案がありました。また特別支援教育の理解推進に向け小学校等 PTA と特別支援教育コーディネーターとの連携についてなど、6 団体からの報告がありました。

それぞれの人格と個性を相互に尊重し共生する社会の実現を目指して、特別支援教育の各分野と情報を共有、交換し協働することが大切だと改めて感じました。

（丹藤）

「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育支援を必要とする児童生徒に関する調査結果について」が文部科学省から公表されました！

2012 年 12 月 4 日、文部科学省から標記の調査結果が公表されました。今回の調査は「2002 年に行われた『通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査』と同様の内容で調査するとともに、その受けている支援の状況を調査し、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の実態を明らかにすることにより、今後の施策の在り方や教育の在り方を検討しようとする」目的で、2012 年 2 月～3 月にかけて、全国（岩手、宮城、福島の 3 県を除く）の公立の小・中学校の通常の学級に在籍する児童生徒を母集団として行われました。調査内容は、Ⅰ児童生徒の困難な状況 Ⅱ児童生徒の受けている支援の状況です。

調査方法が異なるため前回の 2002 年の調査とは単純比較できませんが、学習面又は行動面で著しい困難を示す児童生徒の割合は 6.5%（推定値）で、0.2 ポイント増えました。また、今回の調査で、児童生徒（推定値 6.5%）のうち、現在いずれかの支援がなされている割合は 55.1%（推定値）であることが示されています。

調査結果の詳細は下記をご覧ください。

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/_icsFiles/afieldfile/2012/12/05/1328849_01.pdf

NPO法人全国LD親の会では、この結果を受けて、今後の通常の学級に在籍する児童生徒への教育的支援のあり方について検討し、予算要望、提言等を行っていきたいと考えています。会員の皆さんもぜひ声をお寄せください。

群馬県＆大分県に親の会が設立されました！

●設立総会「群馬子どもサポートだるまの会 ～発達障害児者親の会～」

日 時 :2012年10月20日(土)13:00～
場 所 :群馬県社会福祉総合センター 501
出席者:会員22名、賛助会員 1名、委任状 8名

去る10月20日(土)、「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」の設立総会においてすべての議案が可決され、正式に会設立の運びとなりました。また10月27日(土)の全国LD親の会評議員会において、全国LD親の会への入会が承認されました。

2011年8月に群馬県社会福祉総合センターで高崎市通級指導教室、峯岸先生の勉強会＆親の会設立準備説明会を開催してから1年2カ月。峯岸先生をはじめとする支援者や群馬大の学生ボランティアの方々などのご協力を頂き、運営委員を中心に3か月に1度の全体会と子どもの年齢別グループ活動を行っています。今年2月には国立特別支援教育総合研究所、梅田真理先生の講演会を開催するなど、順調に活動の幅を広げています。

総会終了後、丹藤副理事長より全国LD親の会設立のいきさつや、ご自身の子育ての経験談等のお話がありました。次いでキッズ(幼児～小学校低学年)、ジュニア(小学校高学年～中学生)、ユース(高校生以上)の各代表から活動報告があり、その後グループ別に分かれての情報交換会となりました。全国LD親の会の新しいメンバーを、皆様どうぞよろしくお願い致します。 (木村)

★次回全体会 日 時:2013年1月19日(土) 13:00～
場 所:群馬県社会福祉総合センター

●設立総会 大分発達支援親の会「じゃんぷ」

日 時 :2012年11月18日(日)13:00～16:00
総会終了後懇親会
場 所 :大分県総合社会福祉会館 和室
出席者:会員14名、委任状 1名

2011年 2月に初めて顔を合わせたメンバーが1年9か月の準備期間を経て無事に設立総会を終え、会員15名で正式に活動をスタートしました。

これまで、地元支援者の先生方とのお悩み相談会、テーマ別勉強会から、本年3月11日に開催した地元講師を招いての特別支援教育講演会IN大分II～就学・進学・就労に向けて家庭でできる事～開催に向けた企画、運営などを通し、結束を固めてこられました。

会員の構成は約半数が幼稚園・小学生の保護者で、中学生までが9割、学齢期の子どもを持つ保護者の集まりと言えます。次回全国LD親の会評議員会・理事会に入会申請を提出し、承認を受ければ次年度から全国LD親の会へ入会予定です。九州ブロックにとっても新たな会の誕生という嬉しいニュースで、ブロック全体の活動の刺激になるのでは、と期待しています。今後、大分の皆さんとブロック会を通し、共に活動していけることを楽しみにしています。 (梅野)

★次回定例会のお知らせ
大分県発達支援親の会「じゃんぷ」1月定例会
日 時:2013年1月27日(日)13: 00～
場 所:大分県総合社会福祉会館
メンバー募集中。お問い合わせは全国LD親の会まで！

全国LD親の会会員対象 高校生アンケートにご協力ください！

2012年11月、高校生および高等学校相当の年齢の本人とその保護者を対象とし、各親の会を通して「高校生アンケート」質問用紙を配付しました。高校生の実態調査は、2005年～2006年に行って以来7年ぶりとなります。

前回の調査時点では、小中学校に比べ高等学校では特別支援教育の体制整備が進んでいるとは言えない状態でした。それでは、7年たった今、高等学校における支援は充実したものになっているでしょうか？実は、昨年10月に行なわれた日本LD学会第21回大会でも、高等学校での支援についての発表は数えるほどしか有りませんでした。

「高等学校段階における支援の実態は満足のいくものになっているのか」「本人が・保護者が本当に必要としている支援が受けられているのか」「どのようなことに困っているのか」「どのような支援をして欲しいのか」等について、現状と皆さんの意見を調査し、その結果を数値化して具体的なデータとしてまとめたいと思います。

全国LD親の会はほぼ全国各都道府県に加盟団体があり、全国的に偏りの少ない情報を集めることができる数少ない団体の一つとなります。そのため、このアンケートの集計結果は、行政などへの要望等を行う際にきちんとした根拠(エビデンス)として利用することができます。皆さんの生の声を、これからの高等学校段階の支援の向上につなげていきましょう。集計の都合上、アンケートは2013年1月末までに全国LD親の会事務局まで郵送してください。答えにくい質問もあるとは思いますが、アンケートの回答内容は集計結果としてのみ公表し、個々の回答内容は外部に出しませんので、是非ご協力をお願い致します。 (東條)

親の会設立準備を進めています！　福島県　高知県

●福島県

「すべての子どもの学びを保証するために
～LD等の発達障害のある子どもに必要な支援とは～」
（日本理学療法士協会助成金事業）

＊日 時：2012年11月4日（日）13:30～16:30
＊会 場：コラッセふくしま 5F 研修室
＊参加者数：30 名
＊後 援：福島県教育委員会
＊講 師：品川 裕香 氏（教育ジャーナリスト）
　　佐藤 由弘 氏（伊達市立大石小学校 校長）

福島県での親の会設立準備のため、講師お二人を招いて、教育講演会を行いました。品川裕香さんは「変容する社会を生き抜くために、今こそ福島の子どもたちに身につけさせたいライフスキルとはなにか」というテーマで、豊富な実例をベースにしたお話、地元の佐藤由弘先生は、「『地域で共に学び、共に生きる教育』をめざして～福島県の特別支援教育から～」というテーマで、福島県内で実際に行われている特別支援の例をあげたお話をしてくださいました。参加者は皆さん真剣に聞き入っておられました。

事前申込みが少なく心配しましたが、前日の朝日新聞と福島民友に講演会の案内が掲載されたこともあり、当日の申込みが多く、教育関係者を中心に参加者は30人となりました。親の会設立に向けた準備会への登録申し込みを行い、報道関係3社の取材も受けました。

また、12月1日（土）午後に福島市の福島テルサで交流会を行いました。当日、JDDネットの体験博覧会ワークショップが福島大学で行われていたためか、教育関係者の参加はありませんでしたが、11月4日の講演会に参加できなかった保護者の方2名が参加してくださいました。人数が少なかったので、その分いろいろな話をすることができました。

今回の講演会と交流会などで、設立準備会に保護者3名・教員5名・専門職3名、合計11名の方が登録してくださいました。まだ周知が進んでいるとは言えませんが、今後、保護者の方の要望が多い「学習面での特別な支援」についての講演会や研修会などを行っていくことで、親の会設立の気運が高まるようになればと考えています。

（東條）

●高知県

高知県でのLD等発達障害親の会設立準備に向けて、教育講演会を開催しました。

「発達障害のある子どもの特性に沿った
サポートと教材の活用」
～使い方で変わる教材の有効性～
（日本理学療法士協会助成金事業）

＊日 時：2012年12月9日（日）13:30～16:30
＊会 場：高知市東部健康福祉センター 集会室A・B
＊講 師：山田 充 氏
（特別支援教育士スーパーバイザー・自閉症スペクトラム支援士アドバンス・堺市立日置荘小学校通級指導教室教諭・堺市特別支援教育専門家チーム・堺市特別支援教育推進リーダー育成研修推進委員）
＊参加者数：76 名
＊後 援：高知市・高知市教育委員会

今回、特別支援教育士スーパーバイザーである山田充先生に、発達障害のある子どもの特性に沿ったサポートと教材の活用方法について話していただきました。

学校現場での指導の具体例だけでなく、家庭との連携や子どもに「学ぶこと」への関心を持たせる工夫など、発達障害のある子どもをサポートする際に必要な視点などについて、たくさんの事例を挙げていただき、参加された皆さんも大変熱心にメモを取っておられました。そして、「発達障害がある子どもへの適切な支援の確立には、子どもの特徴を明らかにし、本人の特性を理解し、その特性に沿って考えていくことが重要」という点に、大きく頷かれていました。

「高知県でも地域における仲間を作り、LD等発達障害の親の会を設立して、親の会を支援してくれる関係者と連携していきましょう」という呼び掛けに、保護者13名・教員6名、合計19名の方が登録してくださいました。

今回の講演会開催にあたって、高知の特別支援教育にあたられている先生方に大変ご協力いただき、教員や保護者の方々に広く声を掛けていただきました。また、後援をいただいた高知市教育委員会や会場の高知市東部健康福祉センターの皆様にも、講演会告知など大変お世話になりました。今年度内にもう一度、登録してくださった方々のニーズに沿った内容の企画ができればと考えています。

（井上）

東海・北陸ブロック紹介

H23年度より、中部ブロックと北陸ブロックを統合し「東海・北陸ブロック」として活動しています。

あいちLD親の会「かたつむり」

かたつむりは、おかげさまで創立30周年を迎えることができました。主に「世代別グループ」（小学生・中学生・高校生・青年部）と「有志グループ」（遊びクラブ・ボランティアクラブ・女の子の会・SSTなかよしクラブ等）で、それぞれのニーズに応じた活動をしています。（現在、会員 150 名の約半数が 18 歳以上の青年部になりました。）

従来からの親同志の支えあい・子ども達の居場所としての活動に加え、数年前から教員研修会の講師を務める啓発活動や、「愛知県発達障害者支援体制整備推進協議会」等公的会議の委員など対外的な活動も増えてきました。

去る10 月 28 日に創立 30 周年記念フォーラムを開催し、上野一彦先生をお招きしての記念講演会とドキュメンタリー映画「DX（ディスレクシア）な日々～美んちゃんの場合」の上映会を催しました。上野先生より「支援教育の現状とこれからの課題～支援の必要な子どもたちとともに歩んだ 30 年」とのテーマでご講演いただき、これまでの特別支援教育のあゆみや今後の課題についてお話しいただきました。まさしく上野先生には 30 年間ご支援いただき、いつも「かたつむりが特別支援教育の起点だ」と言葉をかけてくださいました。

これまでのあゆみを感慨深く振り返りながら、感謝とともに『30 年経って、やっと支援の枠組みができた・・・これから一層、親の会として力を尽くさねば』との思いを新たにしました。

（副代表　多久島　睦美）

岐阜県LD親の会「れんげの会」

れんげの会も、設立して 5 周年を迎えました。

今年度は、子どもの居場所作りをテーマにした活動に重点をおいて取り組みました。5 年間に子ども達も成長し、共に遊ぶ“仲間づくり”から、活動の中で役割を与えられる“責任”へと、れんげの会に来る活動の意味を少し変えてみました。

毎年 5 月に行う野外学習事前体験では、小 4～5 年生の子ども達を中心に行っていますが、中学生以上の子ども達にはリーダーとしての係を分担し、有償ボランティアをしてもらいました。（左下）ボランティアは仕事が出来ても出来なくても良い「参加する」という気持ちを大切に・・・を心がけながら、1 回目を開催しました。ボランティアになった、どの子どもも自分の役割を大切にして活動に参加できたと感じられました。

8 月の夏休みお楽しみ会でも、高校生にボランティアとして参加してもらいました。クラフト体験（右上）やお楽しみゲームの時間にはその役割を果たし、活動の中で『自分は頼りにされている存在だ』と感じてもらえて良かったと思いました。

（会長　出口　真奈美）

三重県学習障害児・者親の会「ハナショウブの会」

発足して 20 年、会員家族 11 家族の小さな会です。ここ数年は新会員の入会もなく、この 3 月に高等部を卒業するとほぼ全員が社会人となり、大半が成人の会となります。

内容も毎年検討しながら、年に 6 回、偶数月にバーベキューやカラオケ、パン教室等企画し、活動しています。先月のカラオケでは、初めて子どもと親と別々の部屋でカラオケを楽しみました。最初、子ども達だけでどうなることか・・・と少々心配もありましたが、子どもは親が思うよりも成長しており、曲の検索や入力等、協力し合ってたくさん歌えたようです。時々、分からないことを親の部屋に聞きにくる程度で大きなトラブルもなく、4 時間過ごしました。最初は心配していた親もだんだん子どものことを忘れ、たくさんしゃべって歌って食べてと、楽しいひと時を過ごすことができ、また子どもの成長を再確認できた企画でした。

今後、会員も減少していくと思われますが、楽しい居場所作りを頑張りたいと思います。

（代表　田辺　朋子）

富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会「ゆうの会」

「ゆうの会」も平成 6 年に結成以来、早 18 年が経過し、会員数も 49 名となりました。その構成は小学部 12 名、中高部 10 名、青年部 27 名です。結成当時、保育園児だった子ども達も成人し、20 歳後半の年齢になっております。

私達「ゆうの会」も年度初めに計画した諸活動を会員の協力を得ながら行ってきました。恒例となった 7 月の北陸ブロックとの合同キャンプは多くの会員の参加を得て、立山少年自然の家で行いました。福井「たんぽぽの会」からの参加もあり、子ども達そして保護者とも有意義な交流ができたと考えております。幸い、天候にも恵まれ、子ども達の夏の良い思い出になったものと思います。さらに 9 月には「バーベキュー」も行い、交流を深めました。

ところで、発達障害の子ども達が平均で 6%前後と言われてから、相当な時間も経過しましたが、まだ我が子の特性に気づいていない親もたくさんいるものと思います。また、「ほかの子とどこか違う」と感じつつもそのまま時間ばかりが経過し、進路の選択時期にまた悩みが増えるということもあるのではないでしょうか。会員の皆さんからの声かけでひとりでも多くの会員を増やしていきたいと考えています。

現在まで、本会は「富山県学習障害児者親の会」としてきましたが、「発達障害」の概念が広まってきたことや最近の著名な映画監督の発達障害に関する発言などもあり、少しではありますがその認識が広がったように思います。以前から名称の変更は検討されてきたのですが、会員の要望によって、この 10 月 21 日から名称を「富山県LD等発達障害及び周辺児者親の会」に変更しました。このことにより、多くの方の入会がかなえばと願っております。いずれにしても、発達障害を抱えた子ども達の為、その親は何ができるのか、また 1 つの組織として行うべきことは何かを考え、今後の会の運営に当たっていきたいと思っております。

（代表　谷口　宗次）

石川県発達障害児・者親の会「パル」

「パル」は会員の大半が就業児・者を抱えた親で、特別支援教育が法令で定められる前に、子どもの就学期間を苦労しながら活動して来ました。現在は就職と定着、今後の自立と親亡き後についての情報収集を行っています。その反面、小中学生のための活動が乏しくなり、新規入会した方の定着率が悪くなっている事が課題です。

毎月の活動として、子ども達はカラオケで親交を深め、親はランチ会で若い親の相談等の情報交換をしています。また、毎年欠かさず行っている行事として、春のキャンプと冬の忘年会があります。何れも泊りがけで大量の酒を持ち込み、遅くまで話し合って親交を深めています。

近年は親子バス旅行も企画されるようになり、定例行事になりつつあります。会としての活動はあまり活発ではありませんが、和気あいあいとやっています。

（代表　皆川　俊平）

福井たんぽぽの会

「福井たんぽぽの会」は、1994 年に発足した福井県内に住む発達障害児・者を持つ親の会です。発達障害児・者が自立し安定した社会生活を送れるよう援助する事を目的に、親同士が協力し合い活動しています。

活動内容は、主に進学・就労などの悩みを語り合い情報交換をする定例会の開催、専門家を招いての勉強会、会報の発行の他、福井大学と連携し子ども達のための療育教室（学習、パソコンなど）も開いています。また、子ども達が楽しめるカラオケ会の開催、食事をしながら親同士の親睦を深めるおしゃべり会など、親・子ともに楽しめる活動も行っています。富山ゆうの会企画による北陸ブロックキャンプ（立山少年自然の家）やバーベキュー大会へも参加させていただき、子ども達の思い出の一場面となっています。

さらに、問題を抱える子どもや若者、発達障害児・者の支援活動を行っている NPO 法人「AOZORA 福井」とも連携しています。そこでは当事者同士が交流しながら育っていく居場所づくりを目指し、スポーツレクリエーション、スポーツチャンバラ、和太鼓、ボランティア等の社会参加、学習会など様々な活動をしています。

この様に、「福井たんぽぽの会」は孤立しがちな発達障害児・者や親たちが集える貴重な場となっています。これからも親同士、支え合いながら子ども達の未来を拓くために頑張っていきたいと思います。

（代表　木内　淳子）

● 事務局より ●

空白県対策の一つとして取り組んできた群馬県に、「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～」が誕生しました。2012年10月20日、前橋市で設立総会を開き、会員数30名でスタートを切りました。10月27日のNPO法人全国LD親の会の評議員会・理事会で、正会員団体として承認されました。

●NPO法人全国LD親の会 活動報告

8 月 25 日 特別支援教育支援員講座 大阪・ ドーンセンター 8/25,8/26,9/29,9/30,10/20,10/21,11/10,11/11
（内藤、山岡、井上、茶木、小林）
8 月 30 日 「かけはし 73 号」発行
9 月 06 日 「親の QOL と支援に関する調査」の調査協力会へ研究報告書を送付
9 月 22 日 サポートツール・データベース事業の運営会議（内藤・井上）
10 月 05 日 全国特別支援教育推進連盟第 3 回理事会（丹藤）
10 月 06～08 日 日本LD学会第 21 回大会 親の会ポスター展示（仙台国際センター）
10 月 07 日 日本LD学会第 21 回大会 親の会企画シンポジウム（内藤・井上）
10 月 07 日 日本LD学会第 21回大会 親の会懇親会
10 月 20 日 群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会～設立総会（丹藤・木村）
10 月 27 日 第 12 回NPO法人全国LD親の会評議員会・第 15 回NPO法人全国LD親の会理事会
11 月 04 日 福島県LD等発達障害親の会準備 教育講演会（内藤、東條、丹藤）
11 月 08 日 定款変更 認証
11 月 11 日 特別支援教育支援員実行委員会（東京・品川区）（内藤、山岡）
11 月 12 日 ボランティア支援員養成講座受講生募集（千葉県市川市）
11 月 15 日 高校生アンケー実施 質問紙を各会に送付
11 月 18 日 大分発達支援親の会「じゃんぷ」設立総会（梅野、奥野）
11 月 23 日 一般社団法人日本LD学会 20 周年記念式典（内藤）
11 月 25 日 東海・北陸ブロック会議（内藤、丹藤）
12 月 01 日 福島県LD等発達障害親の会準備 交流会（内藤、東條）
12 月 01 日 JDDネット体験博覧会 2012 （丹藤）
12 月 02 日 JDDネット第 8 回年次大会（内藤、丹藤、東條）
12 月 02 日 JDDネット理事会（山岡）
12 月 03 日 アジア太平洋障害者の十年（2003～2012 年）」最終年記念障害者関係功労者 表彰式（内藤、丹藤）
12 月 07 日 全国特別支援教育振興協議会（丹藤）
12 月 09 日 高知県LD等発達障害親の会準備 教育講演会（高知県）（内藤、井上）

●第 15 回理事会報告

日 時:2012 年 10 月 27 日 16:30-17:00 場 所:代々木区民会館 会議室
出席者:井上育世、多久島睦美、丹藤登紀子、東條裕志、内藤孝子

[審議事項]

第一号議案 NPO法人全国LD親の会第 12 回評議員会における審議結果の承認
第 12 回評議員会における審議結果を審議し、全員一致でこれを承認した。

＜審議事項＞
・「群馬子どもサポートだるまの会～発達障害児者親の会」正会員としての入会
・事務所のPC購入
・第 12 回全国LD親の会公開フォーラムの開催